

世の富を持ちながら、兄弟が必要な物に事欠くのを見て同情しない者があれば、どうして神の愛がそのような者の内にとどまるでしょう。子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう。(Iヨハネ3:17~18)

2013年度「支援の会」活動報告

●『東北ボランティアキャラバン』

大阪女学院の東北ボランティアキャラバンは、2013年3月に始まりました。遠く離れた大阪にいてもできることはたくさんありますが、実際に行って自分の目で見て、自分の心で感じて、現地の方々と話をして、汗を流して作業することで分かることもたくさんあります。行きたい！という生徒たちの声に背中を押され、準備期間を経て東北ボランティアキャラバンを始めることができたことを神様に感謝します。

今までに2回(2013年3月と8月)大阪女学院中高生徒の有志が多数参加し、経験したことを報告礼拝や参加者の文集でシェアしてきました。一人でも多くの方々に現状を知ってもらいたいと思う生徒たちの思いが、一人ひとりの心に届いていることでしょう。

3回目のボランティアキャラバンが、この3月に実施されます。今回は中高だけでなく短大・大学からも有志を募り、オール女学院で行くことになりました。本当に素晴らしいことです。行く度に求められるボランティアの内容が変わってきます。今回何をさせていただくのかは行ってみないと分かりませんが、与えられた仕事を精一杯やらせていただこうと思っています。日時は3月22日(土)夜、夜行バスで出発、岩手県大船渡市にあるカリタスジャパン大船渡ベースに3泊して27日(木)の早朝戻ってきます。お祈りください。(古口羊子)

●『文化祭—被災地の物産販売 完売！ 感謝報告』

昨年の文化祭での被災地の物産販売は、物品の種類も多く盛況のうちに終わりました。「美味しかったから。」と言って昨年のリピーターの方も数多く、大変嬉しいことでした。また、ホール会クリスマス会や卒業生の成人式礼

拝などでもご協力頂きました。在校生、保護者、卒業生の方々、教会関係の方々、その他大阪女学院に連なる多くの方々にご協力頂き、完売することができました。献金も献げてくださり、本当に皆さまの温かいご協力、ありがとうございました。収益+義援金の全ては、それぞれすでに送金いたしました。また、献金も3カ所にお送りさせて頂きました。(裏面の会計報告参照) ありがとうございました。

これらの被災地物品、“長さんのわかめ”(銀洋丸 佐藤長治さん)も“さかなのみうら”さんの物品も、南三陸漁業再生支援協会を通して購入・販売となっており、被災地の地域産業の直接支援となっています。以下は、嶋津祐司さん(南三陸漁業再生支援協会代表)からのメールを紹介します。

「こんにちは。ご連絡有難うございます。この度は多大なる暖かいご協力を頂戴し、有難うございます。文化祭がご盛況のうちに終了したとの事、何よりです。お預かりしました義援金は・・・

南三陸町お手伝いプロジェクト内の「浜に街灯プロジェクト」<http://www.minami-sanriku.net/>と「さかなのみうら物資プロジェクト」<http://sakananomiurabp.jimdo.com/>のガソリン代に充当させて頂きたいと思いますが宜しいでしょうか？ 各ホームページで活動内容をご確認頂ければ幸いです。

貴校のように2年8カ月たった今でも、遠方より応援下さる事は被災した皆様はもちろん、当プロジェクトに全国から集まるボランティアにとっても、大変嬉しくまた励みになる事は、間違いありません。

国や県、町の行政にスピード感すら感じられない今、僕らに出来る事は小さいことかもしれませんが、少しでも、一時でも笑顔になっていただければと思い今後も活動を続けます。

引き続き宜しくお願い申し上げます。寒さ一段と厳しくなります、どうぞご自愛下さい。(2013.11.21付け)とのことです。心からの感謝を持って報告いたします。来年もどうぞよろしくお祈りします。(上山沢子)

私達「支援の会」が昨年の文化祭で販売した東北の物産は、全て売り切ることができました。本当にありがとう

ございます。今回の文化祭で仕入れた物産は数も種類も今までで一番多く、本当に売れるのが、お客さんは来てくださるのかと不安な気持ちも少なくありませんでした。しかし、文化祭当日にはそんな不安も無くなるほどのお客さんが支援の会ブースに足を運んでくださり、物産を手にとって下さりました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。売り上げの収益は全て東北へお届けしました。

また、「支援の会」ブースと一緒に展示させて頂いた『きみの中の二ノノ』の写真展も好評で、私自身も子ども達が撮った被災地の写真を見て感じる事がたくさんありました。

私達大阪の中高生が震災というものを経験したことはなく、実際に被災地に行ったり「支援の会」として東北との関わりを持ったことで知ったこともたくさんあります。メディアで東北に関することが取り上げられる機会がどんどん減っている今、復興は順調に進んでいるとか支援は十分足りているなどという勘違いをしがちですが、東北の方達に話を聞くと決してそんなことはありませんでした。まだまだ私達がやるべきこと、できること、お手伝いすべきことは山ほどあります。

大阪女学院支援の会は今後も東北への支援を継続していきます。文化祭でのご協力、本当にありがとうございました。これからも、支援の会の活動に興味を持っていただけたら嬉しいです。 (S3A 早野真理子)

昨年の文化祭で、たくさんの方々にお越しいただいた結果、私達「支援の会」が販売した東北の物産をすべて売り切ることができました。本当にありがとうございました。

私は、今回の文化祭で初めて東北の物産の販売に参加させてもらいましたが、正直に言うと、並んでいるたくさんの方々の物産を見てこんなに売れるのかなと初めは思っていました。ですが、当日文化祭がスタートすると想像していたよりたくさんの方が「支援の会」のブースに来て下さり、物産を購入してくださいました。また、私は教会での物販にも参加させて頂きましたが、こちらでも多くの方に物産を購入していただきました。本当にありがとうございました。皆様の支援したいというお気持ちと共に、売り上げの収益は全て東北へお届けしました。

私は、「支援の会」に入ったことで東北の現状や支援の進み具合などたくさんのお話を学びました。私達、高校生

にできる支援というのは限られています。その中で、自分達にできる事をしていこうと思っています。大阪女学院「支援の会」はこれからも東北への支援を継続していきます。文化祭や教会での販売にご協力頂きありがとうございます。これからも、「支援の会」の活動への協力をよろしくお願いします。 (S3A 松永真里菜)

初めに、私達「支援の会」は去年の文化祭の「東北道の駅」で販売した東北の物産を全て売り切ることが出来ました。買っていただいた皆さん、ありがとうございました。また、大和キリスト教会での東北の物産の販売も、「もうないの?」と言われるほどの大盛況ぶりでした。収益は全て東北の方々の元に送られ、使われています。

そして、気仙沼の大島中学校との交流会や暁プロジェクト、東北ボランティアキャラバンなど、東北の人々と直に関わる機会がたくさんありました。これらを通じて、震災を体験している人としていない人が交流を持ち、ボランティアや支援の在り方などを話し合うことができました。特に、気仙沼の大島中学校との交流会や暁プロジェクトでは同年代の人達と交流し、中高生の私達に何が出来るかを支援を受ける側・支援する側の両方の立場に立って考えることができました。

私は第1回東北ボランティアキャラバンにも参加し、今回のボランティアキャラバンにも参加します。ボランティアキャラバンで、再び東北の方々と交流できることを嬉しく思っています。今後も、東北に赴き自分の目で見て確かめて行動していきたいと思います。 (S3A 速見莉奈)

●『気仙沼の大島中学校との交流会』

去る12月14日(土)に宮城県気仙沼大島より、中学生4人と引率の先生が来阪されました。そねざきロータリークラブの招待によって、気仙沼の大島にある大島中学校と大阪女学院の交流が実現しました。大阪女学院からは中学と高校を合わせて計20名ほどの生徒が参加しました。



14日(土)に学校に集合してバスで防災未来センターを訪問し、阪神・淡路大震災の被害を追体験しました。18年前の阪神・淡路大震災を経験している生徒はいないので、その壮絶さに息をのみました。東日本大震災とは

規模や発生の仕方が異なり、それぞれの地震の恐ろしさについて学びました。

その後は、大島中から参加した男子生徒2人が野球部員だったということもあり、帰り道にあった甲子園球場に立ち寄りしました。皆大興奮して、「バリーグでは楽天を、セリーグでは阪神を応援します！」と言って立ち去りました。

午後に帰校後、気仙沼の中学生による被災体験の発表と大阪女学院生徒によるボランティアキャラバンの発表を聞き合ったあと、グループディスカッションへ。それぞれのグループに分かれて、これからの防災対策について、これからのボランティアのあり方について、豊かな話し合いの時をもちました。その後、グループ毎に発表を行い、みんなの意見を共有しました。実際に被災をした4人の生徒さんからの言葉には一つ一つ重みがありました。大阪にいる私たちも防災対策に対する意識をもっと高めていくべきであると考えさせられました。

帰りは道頓堀に立ち寄り、みんなで夕食会を持ち交流を深めました。翌日は、大阪城見学を行い、空港への車を皆で見送りました。短い間でしたが、生徒同士は交流を深め、名残惜しいお別れのひとときをもちました。

大島中学校と大阪女学院との交流がこれからも続いていくことを望んでいます。 (岡岡めぐみ)

●『暁（あかつき）プロジェクト』報告

昨年末 12/26～28、「近畿・東北学生交流会～暁プロジェクト」が行われ、大阪女学院「支援の会」からも参加しました。これは近畿のミッションスクール生徒有志達が東北被災地の高校生を無料で招待し、交流と分かち合いを持つことで、自分達の未来につなげていこうというものです。

東北からの参加校は東陵高校(気仙沼市)、常盤木学園高校(仙台市)、磐城第一高校(いわき市)です。中には避難した眼前で自宅が流され、今も仮設住宅から通学している生徒もいました。

以下、ディスカッションで皆が分かち合った言葉を抜き出して紹介します。

「伝え続けること。自分達はその義務がある」

「ボランティアに行きたい人はたくさんいる。もっと現地で活動しやすいような仕組みが実現出来るよう、国に

働きかけたい」

「ボランティアが来てくれることで良かったことは、心の内を話せたこと。そのことで自分は外に向かっていくようになった」

「関心を持つこと。それは独りよがりではなくちゃんと相手の状況、本当に必要な支援は何かを調べて知ることで

「今回は本当に世界中の人々から助けてもらった。だからこそ、私達も常日頃から世界の出来事に目を向けいくこと」

「辛いこともたくさんあった。忘れられないし、忘れたくない。でも、後ろ向きではなく今は前を向いて歩いていく」

「大事な人への感謝、特に家族を大切にしてください。いつ、何が起こるか私達にはわからないのですから…」

最後になりましたが、今回の『暁プロジェクト』のために、お手伝いや献金などご支援頂きました教職員並びに生徒・保護者の皆様ありがとうございました。 (山崎哲嗣)

12月26日～28日の3日間、私たちは去年他校の先輩方が行った東雲プロジェクトを引き継ぎ、暁プロジェクトを行いました。内容は近畿の高校生だけで企画、準備、実行まで全てを行い、資金はすべて街頭募金で賄い、東北の高校生をかつて大震災があった神戸に招待して、そして復興した神戸の街並みをみてもらい、震災のことなどについて意見交換し、そして遠く離れた地の高校生同士がつながるという趣旨のものでした。

近畿から計28人の高校生が参加しており、全員が自分の意思で参加を決めて入ってくれました。中には幼馴染が東北の高校生であり、まだ見つからないという人もいました。

具体的な行程は、王子動物園やスポーツ大会をして親睦を深め、そして東北の高校生や近畿の高校生による講演会をし、近畿、東北が数校ずつプレゼンを行いました。そして、神戸の街を班ごとでフリー案内し、最後には神戸の阪神淡路大震災記念・人と防災未来センターに行き、展示を見て、話し合いの場をもち、東北の同年代の生の声を聞きました。

支援の会通信

その話し合いで宮城県東陵高校2
年の早坂太希君は「復興のスピード

がとても遅い。がれき撤去だけで2年はかかっていて、これじゃ若者がどんどん都市にあつまり、被害が重なった沿岸部には高齢者しか残らず、たとえ外見が元に戻っても、町が栄えることはなくなり、元には戻らなくなってしまふ。正直に言うと震災から約3年たった今でも復興の程度は1割くらいだ。国にもっと有効な対策をとってもらいたいし、ボランティアの人ももっと来て欲しい。」とっていました。

また福島県いわき第一高校2年の井坂千里さんは「メディアでも震災が扱われることが少なくなり、復興も全然進んでいない。復興が進まないせいで家が流された友達は遠いところから学校に通い続け、地元に戻る事が叶わないまま高校を卒業してしまうだろう。自分の地元では、元あったものが震災で崩れ、そのがれきが何とかこの3年で撤去され、そのまま。つまりあたり一面何もなくなった。被災地のことが忘れられたかもということが一番不安で、震災のことを話題にしたり、心にとどめておいてくれるだけでも安心できるので忘れないでほしい。」などと話してくれました。

また、常盤木学園2年高橋千明さんは「私が今回、この『暁プロジェクト』に参加して3日間という短い期間ではあるものの沢山の出会いと学んだ事が3つあります。1つ目は、行動に移すことの大切さです。人は誰でも発言するには勇気や、周りのサポートも必要となってきます。その中で、私は被災し、被災地に居るにもかかわらず自らこの体験を後世の人に伝え風化させないようにしよう、と言うものの実行できずにいました。ですが関西の今回『暁プロジェクト』に携わってくれた人たちは自分たちの意思を実行しています。私は同世代の高校生がこんなにも意欲的にボランティアに参加したり、こういったプロジェクトを企画する姿に感銘を受けて、私も被災者として何か役にたてることを探し行動に移そうと思いました。2つめは言葉に出す、ということです。今回、班の中で分かち合いの時間に私達は沢山の事について話し、考え、今について、これからについてを深く分かち合いました。これは、私はとても大事なことだと思うのです。生の声を聞くことは話す側の心情が伝わりやすいと思うからです。そして聞く側もストレートに相手からの言葉が伝わるからです。文字では伝わらないことが声や表情で

多くのことが分かると思うのです。体験した人だからこそ、その人にしか分からなかった当時の記憶や感情も伝えやすいのもその1つです。時間が足りないくらい、私たちは話し合いました。その時間を無駄にしないように風化させないようにこれからも活動し続けたいと思っています。そして3つめは、私達がしているこの活動を多くの人に発信し理解してもらうことが必要だということです。私たちができることは限られています。だからこそ大人の力を借りるのも必要です。その為にはこの活動をメディアを通したり個人で発信し、沢山の人のためにこの活動を知ってもらい協力し、震災を風化させないように、被害を小さくできるようにしていきたいと思うのです。私はこのプロジェクトに参加できたことを誇りに思っています。私は被災したことが辛く悲しいことだけではないこと、家族にいつも感謝し当たり前存在と思わないことを伝えられたので伝えられてよかったです。」

皆さん、震災から約3年経った今、震災のことを忘れてはいませんか？ まだまだボランティアを必要としている地域があります。私はこのようなプロジェクトが本当の意味での復興を遂げるまで増え続け、『暁プロジェクト』が例え小さなキッカケに過ぎないとしてもお互いを心配する関係、友達としての分かち合う交流が増えていてほしいです。来年は後輩たちに引き継ぎます。どうか少しでも早く復興に繋がりますように！ そして『暁プロジェクト』に参加してくれた東北の東陵高校が甲子園に出場します。是非応援して下さい！（S2D 福 采佳）

大阪女学院中・高等学校
東日本大震災被災者支援の会

2014/03/09 Vol. 11 その2

世の富を持ちながら、兄弟が必要な物に事欠くのを見て同情しない者があれば、どうして神の愛がそのような者の内にとどまるでしょう。子たちよ、言葉や口先だけではなく、行いをもって誠実に愛し合おう。（Iヨハネ3：17～18）

●『2014 東日本大震災追悼礼拝』

Hope for Japan

2014年3月9日（日）14:30～16:00

大阪女学院ホールチャペル

入場無料（募金を募ります）

～ わたしは忘れない ～

「わたしがあなたを忘れることは決してない。」

見よ、わたしはあなたをわたしの手のひらに刻みつける (イザヤ書 49:15-16)



東日本大震災より3年を迎えるにあたり大阪女学院
中学校・高等学校では、この日を覚え、亡くなった
方々のことを悼み、共に祈りをささげるために追悼
礼拝を行います。
どなたでもご参加ください!

黙祷 (14時46分)
被災地支援活動の報告
賛美 (高校聖歌隊)
絵本朗読 (バイブルクラブ) 他

★メッセージ 佐伯淳平先生

主催：大阪女学院中学校・高等学校 東日本大震災被災者支援の会
協力：高校聖歌隊
中高バイブルクラブ
中高等学校YWCA
高校生徒会 ほか有志

★事前に今回の追悼礼拝の案内チラシの近隣配布を行いました。

- ・チラシ配布お手伝い延べ人数 J2-4人、J3-1人、S1-15人、S2-16人、S3-7人
大学生-4人、卒業生-1人、ボランティアキャラバン参加者約20名 (教師6人)
- ・女学院を中心に500m四方 (北は中央大通り、南は鶴差町、西は上本町、東は玉造筋)
- ・チラシ約4000枚配布

●『2012年度「支援の会」会計報告』(昨年度分)

[収入の部]

◎文化祭収入	398,274円
内訳	
飴売り上げ	208,000円 (400円×【りんご飴288個+もも飴232個】)
わかめ売り上げ	124,250円 (350円×355個)
リース売り上げ	15,400円 (700円×22個)
ストラップ売り上げ	34,000円 (1000円×34個)
詩の本売り上げ	15,750円 (1050円×15冊)
カンパ	874円

◎文化祭後 154,700円

内訳	
飴売り上げ	104,000円 (400円×【りんご飴212個+もも飴48個】)
わかめ売り上げ	50,700円 (350円×145個)

◎生徒会・クラブ売上からの募金 133,943円

内訳	
①2011年度未処理分	98,643円
②2012年度分	35,300円

◎前年度繰り越し金① (2012.3.11礼拝運営のための教職員カンパ会計残金) 105,465円

◎前年度繰り越し金② (2012.3.11席上献金、他) 409,050円

◎東北ボランティアキャラバン献金 239,288円

内訳	
献金①2013.3.10追悼礼拝	114,335円
献金②教職員から	124,953円

合計 1,440,720円

[支出の部]

◎わかめ 代金 175,000円

◎飴 代金 312,000円

◎飴 送料 13,000円

◎リース 代金 15,400円

◎ストラップ 代金 34,000円

◎カリタス Japan への献金 20,000円

◎献金(3.11席上献金、他から) 409,050円

内訳	
財団法人日本YWCAへ	136,350円
兵庫教区被災者生活支援・長田センターへ	136,350円
Be One 東北エイドへ	136,350円

◎献金(生徒会・クラブ売り上げから福島第一聖書バプテスト教会へ) 133,943円

◎東北ボランティアキャラバン食費・献品代金 37,519円

◎東北ボランティアキャラバン旅費補助 290,808円

合計 1,440,720円

[収支] 収入ー支出

1,440,720円 - 1,440,720円 = 0円

●『2013年度「支援の会」会計報告』(今年度分)

[収入の部]

◎1986年度卒同窓生有志から献金 ① 92,094円

◎第2回ボランティアキャラバンへの個人献金② 30,000円

◎第2回ボランティアキャラバンへの個人献金③ 5,000円

◎文化祭 (直後を含む) 販売収入 539,100円

内訳	
飴売り上げ	241,200円 (400円×603個)
わかめ売り上げ	114,800円 (350円×328個)
乾物売り上げ	92,050円 (350円×263個)
ふくろうストラップ売り上げ	3,600円 (300円×12個)
ボールストラップ売り上げ	3,600円 (400円×9個)
リストバンド売り上げ	43,200円 (300円×144個)

缶詰、醤油、味噌パン売り上げ 関連献金（釣り銭献金など）	40,300円 350円
◎文化祭後販売収入	225,500円
内訳	
飴売り上げ	92,800円（400円×232個）
わかめ売り上げ	60,200円（350円×172個）
乾物売り上げ	47,950円（350円×137個）
缶詰、醤油売り上げ	4,160円
ブローチ利益分	800円
リストバンド売り上げ	2,100円（300円×7個）
関連献金（釣り銭献金など）	17,490円
◎生徒会・クラブ売上からの募金	46,763円
◎リストバンド売り上げ（上記以外）	114,900円（300円×383個）
◎クラブからの献金	30,000円
◎2014年成人式礼拝募金（第3回ボランティアキャラバンのための）④	53,790円

合 計 1,137,147円

※①②③は、第2回ボランティアキャラバンのために献げられた献金です
④は、第3回ボランティアキャラバンのために献げられた献金です

[支出の部]

◎第2回ボランティアキャラバン諸費（※1）	105,785円
◎長さんのわかめ 送金	180,000円
◎さかなのみうら（乾物） 送金	143,850円
◎生産者直売のれん会（缶詰、醤油、味噌パン） 送金	44,460円
◎さんさカフェ・大船渡ベース（ストラップ） 送金	10,000円
◎羽根田桃園（あめ） 送金	334,000円
◎リストバンド仕入れ代金借り入れ戻し（宗教部予算へ）	160,200円
◎献金	81,000円
（財団法人日本YWCA、兵庫教区被災者生活支援・長田センター、Be one 東北エイドへ 27,000円ずつ献金）	

合 計 1,059,295円

[収支] 収入 - 支出

1,137,147円 - 1,059,295円 = 77,852円（※2）

※1 第2回ボランティアキャラバン諸費の支出内容は、往復車内食事代金・4回×25名、大船渡ベースへの
献品（お米、ペットボトル飲料水、梅干し、ふりかけ、など）代金です

※2 残金77,852円から、第3回ボランティアキャラバンの必要経費に用いられます

（柴田 昭）

ありがとうございました。

大震災から3年目、時の流れと共に薄れていくのではなく、ますます被災地のことを心に覚え、

被災地の方々の思いに立って、共に歩いていきましょう。祈っていきましょう。

**「支援の会」では、大阪女学院としてできる支援活動を、これからも心を込めて続けていこうと考
えています。**

皆さまの温かいご協力をこれからもよろしくお願ひします！

今年度も大阪女学院中学校・高等学校 東日本大震災被災者支援の会の活動にご協力いただき